

NJ素流協 News

平成24年10月31日
第94号

平成24年10月31日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

合法木材等供給事業者 を認定 ～発電利用に 供する木質バイオマス の証明を盛り込み～

この度、ノースジャパン素材流

通協同組合は、組合員82名を10月1日付けで合法木材等供給事業者として認定した。認定事業者(第1次認定)は次頁のとおり。

これは、前回(平成21年)認定の有効期間が9月末日をもって終了したことに伴う更新認定であるが、今回は従来の合法木材・間伐材に加えて、発電利用に供する木質バイオマスについても分別管理・証明する内容が盛り込まれた。

再生可能エネルギーの固定価格買取制度においては、木質バイオマスの由来により電気買取価格が異なるため、電気消費者の信頼確保を図るためには、適切に分別管理を行うことが求められている。

認定にあたっては、9月27日(木)に開催した認定審査委員会(委員

長 森林総合研究所東北支所 駒木貴彰支所長)において、事業者が認定要件を満たしているか審査を行った。

具体的には、①合法木材等(合法木材、間伐材、間伐材等由来の木質バイオマス又は一般木質バイオマス)が互いに、かつそれ以外の木材等と分別して保管することが可能な場所を有していること②合法木材等の分別管理の方法が定められていること③合法木材等の入出荷、在庫に関する情報が管理簿等により把握できること④関係書類を5年間保存すること⑤本取組の責任者が1名以上選任されていること、の各要件について審査のうえ、認定事業者を決定した。

また10月5日(金)、岩手郡滝沢村の産業文化センター(アピオ)において、合法木材等供給事業者研修会を開催した。各事業体からの出席者は、再生可能エネルギーの固定価格買取制度の下での木質バイオマスの管理・証明手順等を確認した。講師、演題は次の通り。

1. 全国素材生産業協同組合連合会専務理事 中村勝信氏、「発電利用に供する木質バイオマスの内容とその証明等制度」
2. 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)研究員 小川拓哉氏、「岩手県における未利用間伐材等利用可能量」

3. NJ素流協 外館経営企画部長、「合法木材等の証明における分別管理・文書管理責任者の役割」

なお今回受講できなかった組合員は、第2次の研修を受講の上、認定を受けることとなる。



合法木材等供給事業者研修会の様子

合法木材等供給事業者認定名簿（第1次）

認定番号	認定事業者	住所	認定番号	認定事業者	住所
素流協-001	荒川商事 有限会社	二戸市	素流協-055	株式会社 中部林業	大槌町
素流協-002	有限会社 泉林業	住田町	素流協-056	仲山林業	遠野市
素流協-004	岩手県国有林材生産協同組合連合会	盛岡市	素流協-057	中村運送 有限会社	岩泉町
素流協-005	岩手県森林整備協同組合	盛岡市	素流協-059	東林業	洋野町種市
素流協-006	有限会社 岩手木材運送	岩手町	素流協-063	佐藤木材	花巻市大迫町
素流協-007	株式会社 小笠原林業	八幡平市	素流協-064	株式会社 伊藤木材	藤沢町
素流協-008	小野寺木材 株式会社	盛岡市	素流協-065	株式会社 平川林業	陸前高田市
素流協-009	株式会社 鹿尻島屋	大船渡市三陸町	素流協-066	中村木材工業	大船渡市
素流協-010	小岩井農牧 株式会社	雫石町	素流協-068	金野木材	大船渡市
素流協-011	株式会社 昭林	盛岡市	素流協-069	ふる里木材	田野畑村
素流協-012	有限会社 白桃林業	岩手町	素流協-070	二戸林業 株式会社	一戸町
素流協-013	有限会社 佐々木農林	大槌町	素流協-071	株式会社 小野寺林業	藤沢町
素流協-014	株式会社 佐藤木材	奥州市衣川区	素流協-073	興和林業 株式会社	一関市
素流協-015	有限会社 杉本造林	八幡平市	素流協-074	上山林業 有限会社	久慈市山形町
素流協-016	住田素材生産業協同組合	住田町	素流協-076	佐々木林業	住田町
素流協-018	トーア木材 株式会社	岩泉町	素流協-077	佐々木林業土木	遠野市
素流協-020	明和フォレストック 有限会社	奥州市胆沢区	素流協-078	有限会社 関善林業	八幡平市
素流協-021	有限会社 谷地林業	久慈市山形町	素流協-080	奥林業	二戸市
素流協-022	有限会社 山一木材	一関市	素流協-081	有限会社 大畑林業	九戸村
素流協-023	横澤林業 株式会社	岩手町	素流協-082	有限会社 高喜木材	花巻市大迫町
素流協-024	株式会社 吉本岩泉事業所	岩泉町	素流協-084	有限会社 泉山林業	八幡平市
素流協-026	高橋木材	花巻市大迫町	素流協-085	三浦林業	八幡平市
素流協-030	松村林業	滝沢村	素流協-086	柳本 一男	花巻市石鳥谷町
素流協-031	有限会社 松田林業	住田町	素流協-087	袖林林業	雫石町
素流協-033	伊藤林業	八幡平市	素流協-088	丸薫木材 株式会社	一関市
素流協-034	有限会社 津田商店	奥州市江刺区	素流協-089	佐藤建設 株式会社	田野畑村
素流協-035	有限会社 江刺屋林業	住田町	素流協-090	小野寺 隆治	軽米町
素流協-036	橋本林業	住田町	素流協-091	株式会社 西南育林	花巻市
素流協-037	有限会社 佐藤木材	住田町	素流協-092	佐藤 勇一	盛岡市
素流協-038	平山林業	大船渡市	素流協-093	株式会社 古里木材物流	盛岡市
素流協-040	岩渕木材	陸前高田市	素流協-094	株式会社 千葉フォレストリー	一関市花泉町
素流協-041	有限会社 三栄興業	遠野市	素流協-096	西間林業	岩泉町
素流協-043	丸巳林産 株式会社	北上市	素流協-205	青森県国有林材生産協同組合	青森県青森市
素流協-044	クチキ木材商事	盛岡市	素流協-206	株式会社 高橋林業	青森県八戸市
素流協-045	株式会社 浅倉農林	奥州市江刺区	素流協-211	太田林業 有限会社	青森県五戸町
素流協-046	山中林業	岩手町	素流協-212	丸富運輸 有限会社	青森県三戸町
素流協-048	中村林業	曾代村	素流協-214	兵庫木材	青森県黒石市
素流協-050	株式会社 イワリン	盛岡市	素流協-223	角岸 啓司	青森県新郷村
素流協-051	杉澤 幸四郎	盛岡市玉山区	素流協-225	遠澤 郁	青森県田子町
素流協-052	遠野林業	陸前高田市	素流協-501	株式会社 八幡平貨物	秋田県鹿角市
素流協-053	佐藤造林	大船渡市	素流協-506	有限会社 畑澤造林	秋田県五城目町

「第49回全国林材業労働災害防止大会」でN J素流協組合員が会長表彰を受賞

林業・木材製造業労働災害防止協会主催の当大会は、全国の林材業関係者が一堂に会し、労働安全衛生意識の高揚を図るため毎年開催されている。今回は10月2日青森市内で開催された。N J素流協組合員の受賞は次の通り。事業場賞(優良賞)Ⅱ(南)下久保産業、上北森林組合、個人賞(功労賞)Ⅱ小田桐久一郎(青森県国生協)、個人賞(功績賞)Ⅱ山内八朗(青森県整備協)。その他、孫会員の方々も受賞されている。

全国造生協と全素協が森林整備の予算確保について要請

全国国有林造林生産業連絡協議会・全国素材生産業協同組合連合会の両会長と全国の支部組織の役員が、10月12日林野庁を訪れ、要望書「森林整備のための予算の確保について」を沼田長官に手渡し

た。一行は昨今の林野行政について長官と暫時懇談した。要望項目は次の通り。

- 1 森林整備予算の拡充について
- 2 素材生産業の活性化・育成強化を図る諸対策の予算の拡充について
- 3 森林吸収源対策推進のための税制上の措置について
- 4 国民共有の財産である国有林の適切な管理の実現について

N J素流協経営技術研修会を実施

今年度の経営技術研修会は、10月に「Ⅰ 森林作業道作設研修」(実地研修)と、「Ⅱ 地域材の安定供給と低コスト再造林」(座学、現地研修)を実施した。Ⅰは(株)フォレスト・サーベイの「森林作業道作設オペレーター育成事業」を素流協が受託する形で行ったものである。

「Ⅰ 森林作業道作設研修」は、初級研修として、10月15日から19日までと同29日から11月2日まで、基本土工を中心に2グループ、計9名、

同29日から11月2日までは経験者を対象にフオーアアップ研修として応用土工を中心に1グループ、計5名を対象に実施した。講師は組合員の西間薫氏と畠山辰也氏に務めて頂き、岩手県紫波町内の山林で、実際に重機を操作しながら実習を行った(写真1、2)。



写真1 座学

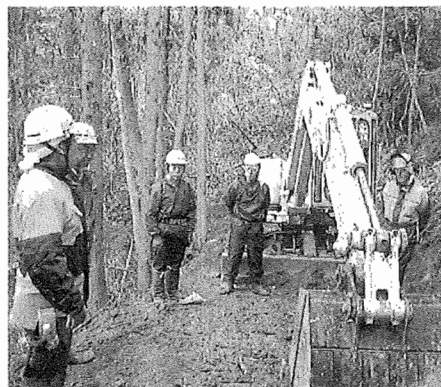


写真2 実習

「Ⅱ 地域材の安定供給と低コスト再造林」は、10月22日、23日の2日に渡って実施した。1日目は盛岡市内において、N J素流協の下山理事長、高橋常務理事、外館経営企画部長が講師となり、「大口需要者に向けた地域材安定供給の取組み」、「震災後の素流協の取組みと素材流通の現状、期待」、「フォレスト再生モデル実証事業の中間報告」のテーマで講義を行った。2日目は現地研修として、岩手県矢巾町の岩手県森林組合連合会盛岡木材流通センターと、花巻市の横田樹苗畑を訪問した。盛岡木材流通センターでは、「丸太入札価格から見た有利な丸太採材法」のテーマで、田口木材販売グループ長から解説を聞いた。また横田樹苗では、横田代表から「コンテナ苗についての長短所と育苗の実際と課題」について説明を受けた。今後は経営技術研修会Ⅲ・Ⅳとして、11月に静岡県で開催される林業機械展示実演会の視察、12月に福島県会津若松市の木質バイオマス発電所等視察を計画している。

お知らせ

10月13日(土)より、NJ素流協の事務所を農林会館9階から5階に移転しました。今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今月の名木・巨木

7

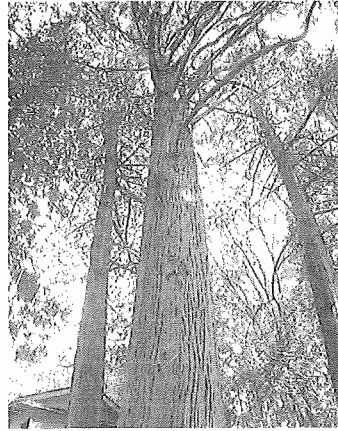
(雫石町)

雫石町指定天然記念物

雫石神社の杉

指定：1994年7月1日

所在：岩手郡雫石町西根字北妻52



雫石町西根地区にある雫石神社の杉は、樹高40m、幹周り5・4m、推定樹齢1340年（環境庁調査及び現地案内板による）の巨木である。

ここ雫石神社は、「雫石」の地名発祥の地として伝えられている。今から約千年前、この辺りは松や柏、杉の大木が連なる深い森だった。

里の人々の間には、静かなこの森の中から、笛の音のような澄ん

だ音が聞こえる、と言い伝えられていた。

ある日、一人の翁がその音をたどると、大きな老杉の根元に洞窟を見つけた。その中では、銚子の口先に似た岩の先から落ちる滴が下の石に当たり、その音が「たんたん」と響き渡っていたという。

その噂は郷内に広まり、大勢の人々が見物に訪れた。いつしか、この地は「滴石」と呼ばれるようになり、後に現在の「雫石」となると言われている。



その洞窟は「雫石たんたん」と呼ばれ現在も清水をたたえており、その傍らには「雫石神社の杉」がそびえ立っている。

神社には日本神話の神「月夜見命」が祀られ、この杉は「月夜見大杉」とも呼ばれている。

なお推定樹齢については若干大げさに感じられるが、伝説を考慮しての数字なのだろう。

銚子の口は欠けて今はないとのことだが、洞窟を覗き込み耳を澄ますと、静かに滴の音が響いている。

冗談欄 「ヤツパリとヤハリ」

この頃岩手県内の市町村名をインターネットで調べる機会が多くなった。そこで分ったことだが、旧大迫町はオオハサマ、旧浄法寺町はジョウボウジと前者は濁らず、後者は濁ることである。

また、「田」の付く市町村、山田町、旧湯田町、野田村の田の読みは「ダ」で、陸前高田市、旧田老町、田野畑村、旧金田一村の田は「タ」である。

昔から、「世の中は澄むと濁るの違いにて、刷毛(ハケ)に毛があり、禿げ(ハゲ)に毛が無し、また、「世の中は澄むと濁るの違いにて、副(フク)に徳(トク)あり、河豚(フグ)に毒(ドク)あり」と濁点の有無の言葉遊びがなされている。

そこで、森林や林業、木材等に関連ある言葉を拾ってみた。土場↓賭場、トラック↓ドラッグ、タ

イヤ↓ダイヤ、自然↓慈善、光合成↓高校生、箸↓恥、積載↓石材、市場↓死傷、機械↓議会、環境↓眼鏡、山地火災↓残置家財……結構あるものである。

また、動作を形容する言葉は、濁点が付くとその程度が強くなる。コロコロ↓ゴロゴロ、サラサラ↓ザラザラ、キラキラ↓ギラギラ、トントンドンドン。

濁点ではないが、「日本」の読みは、「ニホン」と「ニッポン」とどちらが正しいのか。

国民はニホンジンで、国名はニッポン。この小さい「ッ」のことを促音というらしいが、「ヤハリ」と「ヤツパリ」どちらが正しい使い方か、中学時代に国語の先生に聞いたことがある。

先生答えて曰く「やっぱりヤハリが正しいのではないかと」。

平成 24 年 10 月 分 の 販 売 実 績

- 1 合板用出荷量を前月と比較すると、スギが約360m³増加、カラマツが約2,780m³増加、アカマツが約480m³減少し、全体では約2,630m³増加している。昨年同月と比較すると、スギが約220m³増加、カラマツが約5,600m³増加、アカマツはほぼ同量で、全体では約6,200m³増加している。今月のシステム販売取扱量は約590m³であった。
- 2 その他（合板用以外）の出荷量は前月より約120m³減少、昨年同月より約2,720m³増加している。
- 3 今年度の年間計画量に対する出荷量の割合（目標達成率）を58%とすると、今年度の全体出荷実績は、計画数量を10.6ポイント下回る結果となった。

樹種	長級 (m)	当 月 出 荷 量			今 年 度 累 計			
		合板用	そ の 他 材 用 等	計	合板用	樹 種 別 割 合 (%)	そ の 他 材 用 等	計
スギ	2.0	2,259			15,268			
	4.0	1,481			8,125			
	計	(179)		(179)	(2,241)			(2,241)
		3,739	3,603	7,342	23,393	29.4	31,018	54,411
カラマツ	2.0	5,184			27,467			
	4.0	2,935			15,282			
	計	(415)		(415)	(1,319)			(1,319)
		8,119	83	8,201	42,749	53.7	3,136	45,885
アカマツ	2.0	1,009			9,625			
	4.0	205			2,865			
	計							
		1,213	0	1,213	12,490	15.7	98	12,588
その他針葉樹		379	25	403	977	1.2	156	1,133
広葉樹		0	93	93	0	0.0	353	353
合計		(594)		(594)	(3,560)			(3,560)
		13,450	3,803	17,254	79,609	100.0	34,761	114,370
目標達成率 (%)								47.7
今年度計画量								240,000

() はシステム販売取扱量 (内数)

落穂拾い

最近我が国の林業界においてきわめて関心度が高い事柄の一つは、木質系バイオマス利用に関する国および関係業界の動向である。より具体的に言えば、木質系バイオマスを熱源とするバイオマス発電に対する関心である。

特に間伐や素材生産の際に出てくる林地残材や低質材の処理に困っている伐採業者、製紙用チップの流通量が低迷していることからチップ工場の稼働率が4〜5割も下げざるを得ないチップ製造業界、原木を引いて柱や板を製造する際に必然的に発生する背板や樹皮を過剰に貯留せざるを得ない製材業界等、すなわち未利用材の処理に悩んでいる川上側の現状にあって、これまで利活用されてこなかった木質バイオマスの安定的な受け入れが期待できるバイオマス発電所が近くに立地・建設されることを期待を込めた眼差しで見守っているのである。

バイオマス発電については、東北地方においても幾つかの建設構想があるようであり、福島県会津地域では木質系バイオマスだけを原料とする発電施設ができて稼働を始めたというし、また建設構想の実現への進み具合に濃淡はあるものの、そう遠くない時期に建設されるものが幾つか出てくる予想されている。

なぜ近年になってバイオマス発電が脚光を浴びるようになったのだろうか。

実はバイオマスだけが注目されているのではなく、これは再生可能エネルギー源の中の一つとして取り上げられている。再生可能エネルギーとは、化石燃料や原子力な

どとは異なり、自然環境から持続的に採取できるエネルギーのことである。具体的には、太陽光、風力、地熱、太陽熱、そして森林に代表されるバイオマス等が挙げられる。世界的にこの再生可能エネルギーの活用が重要視されるようになったのは、地球温暖化の元凶の一つとしての二酸化炭素の急激な増大を防止するために、大量の二酸化炭素を放出する化石燃料(石炭、石油等)への依存量を減らそうという考え方に立っているからである。

また、原子力エネルギーについては、1986年にウクライナで起こったチェルノブイリ原子力発電所の大爆発による広域にわたる放射能拡散、さらに我が国においては1年半ほど前の2011年3月11日に起きた東日本大震災の地震と津波による東京電力福島第一原子力発電所事故によって放出された放射能の深刻な影響もあって、国民の間に原子力活用に対する多くの疑念が生じている事実もある。

世界に目を転ずると、先進国では人口減少傾向にあるが、中進国や開発途上国では人口が増え続けており、全体では今後とも世界人口は増大し続けるという。人口が増え生活程度が向上するに伴いエネルギーの消費量は増えるのである。地球上の生き物が生存していくためには、地球環境を良好に保持していかなければならないという理は十分に理解できる。この重い課題を解決する一つの対策が「再生可能エネルギーの活用」というわけである。

次号の当欄においては、我われの身近な関心事であるバイオマス発電と林業について少しく述べてみようと思う。